

●第9回委員会 会議要点録

平成 17 年8月8日 19 時～21 時 40 分

多摩市役所 特別会議室

出席者：檜垣正己委員長 白鳥光洋副委員長 岡崎和子委員 小澤尚子委員 武智秀之委員 堤香苗委員

事務局：企画課長 経営改革推進担当課長 企画調整担当主査 企画課主査

1. 審議(1)市民参画による評価機関について (2)答申案について

資料 29「多摩市行財政再構築プランの推進に向けて」

資料 30「多摩市における行政評価の手法並びに評価への市民参画のあり方について」(答申案) 参照

2. 今後の予定・10～11 月中に一度開催。詳細未定

委員 開始する。次第の順番を変え、「多摩市における行政評価の手法並びに評価への市民参画のあり方について」。できたら本日をもって最終案としたい。

事務局 [前回の案との変更点の説明]。

前回の審議を反映した案を先週送付し、週末までに更に意見をいただいたもの。なお、文末の「参考」は答申には含まず、答申案の流れを事務局が予想し作成したもの。

委員 「参考資料・事業カルテ」から「評価票」とした理由は。

事務局 事務事業評価票を、多摩市では「事業カルテ」と呼んでいるが、一般的ではないため。

委員 最後の「参考」のフローにある「(議会意見)」の意味は。

委員 実態として、一次評価は市民にも議会にも報告される、との意味か。

事務局 6 月に出納閉鎖による決算が確定し、その事務事業評価を一次評価として「決算事業報告書」にまとめ、決算審議の資料として議会にも提出する。そこで議会から市に対して出された意見を、情報共有の観点から委員会にも提供する。

委員 p6. 評価の内容は、ABCDEの方がわかりやすいならそう統一した方が良い。また、「緊急性」を書くスペースがあった方が良い。

委員 「緊急性、またはその他の特記事項」と並列ではいかがか。

委員 「その他の特記事項」は、市民参画についてのもの。別立てで「5緊急性」に。

委員 「総合評価」D、E は似たようなことなので、中心化を避けるために4段階にした方が。

委員 E は必要性が薄く改善より廃止を。D は、やり方次第では存続もありえる。違いは

大きい。

委員 そうするとCとDの違いがわかりにくい。

委員 Cは、すべきだが方法がまずいもの、だが、C、Dは統合でも良い。

委員 議会で審議し承認された事業で、Eとまで評価されるものはあまりないはず。D、Eの方が近い。

委員 再構築プランを議論したとき、幾つかEに該当するものもあった。開始当初は意味があっても役割を終えた事業について、改善をすれば残して良いか廃止か、のギリギリの選択をするためのためにEはあった方が良くと思う。とはいえ数は少ないので、みなさんの合意を得られれば、D、Eを統合し、A～Dの4段階に。

委員 この答申は、最終的なあり方ではなく、むしろ「こういう方針でやり始めてはどうか」と提案する方針にしたい。それでは、答申案はこれにて確定する。

委員 「多摩市行財政再構築プラン推進に向けての意見のまとめについて」。まとめるより、意見を申し上げるもの。自由に意見を出してほしい。

委員 プラン全体の進捗状況の概観について。

再構築プラン、事業の改革を進める上で、目標とスケジュールを示すことをぜひ心がけてほしい。例えば「検討」といった項目についても、いつまでにどんな内容を検討するのかを明確にする必要がある。

委員 新たな支えあいのしくみづくりについて。情報提供、情報交換は必要。NPOセンターなどをもっと活用する方法はあるか。

事務局 NPOセンター、ボランティアセンターなどがある。横のつながりがあまりないのが実態。

委員 ヴィータにはいろいろな機関が入っている。NPOセンターなどは皆が立ち寄れる場にあることが望ましい。

事務局 市民活動情報センターをヴィータに置く件は、3月議会で予算が認められなかった。ヴィータは教育施設で、生涯学習の情報センターがある。そこにNPO、自治会なども含めて市民活動の情報を入れ、コーディネーターを配置し、横につながるしくみを作り、情報を集約することを考えていた。

委員 ボランティアセンターの利用者は多いか。

事務局 多くの市民が活動している。

委員 ボランティアセンターは、相談ではなく活動の場、とのイメージ。NPOセンター、ボランティアセンターが、何をしてくれるのか、どんなときにそこに行くのか、検索してもわからない。

新たなしくみづくりに必要なのは、個々の情報や行政との関連では縦割りになる情報を横につなぎ、様々なニーズをとらえて必要な情報に結びつけていく中核とな

る機能と、コーディネーターの存在が必要。

委員 市民主導のしくみが必要、というのは共通意見。

次は、NPOをつなぐことの必要性。NPOは、目指す方向としては共通するものがあるが、そのつながりがうまくいかない。実感で知っている人が必要。

委員 他にもシルバー人材センター、社会福祉協議会など色々な機関があるが、役割、境界がわからない。それらに今ある以上の機能を求めるのではなく、補完するような案内が必要。

委員 今事務局から説明のあったような新規の機能を情報センターが持っていたら、と残念。

聖蹟桜ヶ丘と永山・多摩センター地区は、移動するのには非常に不便。情報の場が永山と聖蹟桜ヶ丘にあり、多摩市の情報やしくみがいろいろわかるのであれば、新たな支えあいのしくみづくりにつながる。2か所あって無駄ということはない。

委員 市民が主役になるために、コーディネーターの必要性は大きい。行政は異動があり、作り上げた人間関係が2、3年で変わるので、行政がすべきではないと考える。

委員 情報と人、人と人をつなぐ機能。

委員 そういうNPOはないのか

委員 NPOセンターには、本来そういう役割のはず。「出会いの場」というと、イベントになりがち。イベントではなく、センターの利用団体への情報提供だけでなく、個人も含めた様々なニーズをつなぎ、日常レベルで出会いの機会を提供できる機能が必要。集約した情報を使うには検索能力が必要で、ファジーな要求に対する「聞き出し屋さん」、コーディネーターが要る。

委員 人は配置されていても、多分役割が今のニーズにあっていない。コーディネーター、情報周知の役割などでなく、従来のように待っている役割のまま。

委員 市が関与しないと実現が困難なので手伝える人が必要だが、市が場所を作れば良いのではなく、参加する人の希望にあわせて中身を設計すべき。今日の新聞夕刊に「市民参加を呼びかけてもなかなか参加しないが、指名されれば参加する」とあった。聞けば意見は出る。そのへんのしくみを考えても良い。

インターネットで情報得る人は、どのくらいいるか。

事務局 第27回世論調査によると、インターネットの利用率は全体では55.8%。年代、男女別では、男性は40代、女性は20代が最も多い。

委員 情報を得る手段として、たま広報が最も多いとの報告を得たことがあるが。

事務局 子育て中の女性を対象とした調査において、子育て関連情報を得る手段として、の設問においてそのような結果であった。

委員 どの情報を得たいかによる。市政や議会の情報を見るのは一部の人で、多くの市

民はゴミの日や緊急診療など、生活に密着した部分。広報なら掲載箇所がすぐわかるが、インターネットは探しにくい。

委員 情報取得の情報等については、世論調査の103ページ以降に詳しく載っている。

委員 携帯電話に配信される「多摩市安全安心まちづくり情報」は、片手で見ることのできる情報としてよく見ている。

委員 これだけメディアが発達しているのだから活用すべき。市が市民を指名して意見を求めることはあるか。

事務局 無作為抽出による世論調査、アンケートなどがある。以前、希望制で市政モニターを実施したが、同じ人ばかりで広く多様な意見を求める面では行き詰まり、現在は中止している。

委員 高齢社会を考えると、手段はインターネットだけではない。また、学校跡地より駅の近くなど便利な場所に、縦割りではなく何でも相談できる、何でも答えられる人がいた方がよい。

委員 新たな支えあいのしくみについて。

市の事業の受託者は、公募、入札で選ぶようになってきている。公募なので極めて限定された事前情報しか得られないことに困っている。談合防止などがあり、性善説だけではできないと思うが。

NPO、民間、個人が協力して実施する関戸花火大会は、すごく良い形と思う。

委員 公募型と提案型の中間のようなものがあればよい。提案してほしいと行政担当が思っているものもあるはず。

事務局 NPOの協働指針では、なるべくNPOの提案をいただくことになっている。事業実施後は、「NPO(非営利活動団体)協働事業診断」で互いの意見を比較する。事業によってうまく行くものとそうでないものがあるが

委員 性善説に立つかもしれないが、ある程度は任せないといけないのか。あまり規制を厳しくすると参入が難しい。目的を明確にし、成果で評価すればよい。

事務局 慶祝事業からやり方を変えよう、と、実行委員会を作り、自ら楽しむ方法にした。いろいろな価値観の方がいて難しいところもあるが。

委員 ランダムに指名してやらせてはどうか。新しい公共は、市民の義務であり責任。やりたい人ばかりがやるのではなく。

委員 指名した理由がわかりにくく、やりたい人ができないことへの不満が多いかも。難しいのでは。

委員 協働とは、ひとりひとりが、できることをできる時間ですること。その幅をなるべく広くするしくみ、参画させ能力を発揮できる仕組みをどうつくるが課題。

委員 No.156.「NPOの総合的な発展を資金面等から支援できる仕組みづくりの検討」と

は。

事務局 その必要性を述べたもので、具体的ななしくみはまだ想定しておらず研究段階。基金を設置する自治体もあり、基金に限らずいろいろなしくみを検討したい。

委員 危機的な課題を実施するための支援か。社会福祉協議会のように、特定の団体に行政が関わるのは不公平、との意見もある。

事務局 特定のNPOではなく、NPO全体として。NPOは資金繰りが大変なので、資金を融資するようなしくみが必要かと。

委員 昨年の市民ケンケンガクガク討論会では、市税の1%をNPOに、との議論も出た。

委員 ある程度要件を満たし、申請すれば対象とするのか。

事務局 基金と言っても行政がするもの、そうでないもの等様々で、まだ未定。

委員 大学との連携についての例を挙げる。

ひとつは、政策課題、例えば多摩センター活性化等の課題についてのコンペ、大学院で特定のケースをデータと共にあげて研究などの中で、教員と学生が提案することが考えられる。欧米で言うサイエンスショップ。また、その分野で調査をしている大学で、アンケートのサンプルを、作成するなど。該当する大学はいくつもある。大学院では、横須賀の市役所などの連携の例がある。

委員 NPOで一番難しいのが、企業経営の手法を知らないこと。多摩市のNPO、市民起業の団体などを対象とした奨学金制度。市に貢献することを条件に、こうしたノウハウを学習することへの支援、奨学制度なども有効ではないか。寄付先を指定する寄付金などもある。

NPOや市民団体は、単発のイベントなら実施できても、特定の人に負担がかかると持続は難しい。マネージメント能力が身につけられるような手法を。

委員 最近では学生でも起業する人が増えている。行政からの事業委託はNPOを重視しがちだが、それに限定せず、全体を含めて幅広く対象にできる方が市民の支えあいになる。

委員 色々なチャンスがある方が良い。

委員 審議会などの市民参画に自ら参画を希望する市民を公募等で募集する方法は定着してきているが、比較的高齢者が多く偏りが出る。若い人に参加してほしい。参加しやすいきっかけ作りが必要。

委員 市民参画希望の意向調査をしたことはあるか。

委員 その種の調査は、「機会があれば」「時間があれば」と回答する傾向がある。

事務局 大学連携の分野は、高齢者、障がい者、スポーツ、ニーズ・意向調査等。

委員 高齢化層と、近辺の大学生が関われば両方が活性化する

事務局 グランフェスタは高齢者が中心の実行委員会で、国士館の学生が関わっている。

委員 イベントだけでなく、世代間の交流、相互理解を多方面で。

委員 大学との連携は単発的なのか。

事務局 現在は、多摩市と7大学等との間で、各々継続的な連携の協定を交わしている。それ以外には、社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩がある。大学、事業所、行政と、計 84 機関が多摩エリアの広いネットワークを組み、連携するもの。

委員 市と各大学間だけでなく、横断的な連携は。

事務局 正式に大学との協定を交わし始めたのが平成 15 年度。最初の段階はまず協定を結び、ネットワークは次の段階と考えている。

委員 八王子は21大学。多摩市も、もっと広い方が良い。

委員 行財政再構築プランの前段階である多摩市行財政診断白書の委員会で、NPO 等は経理、雑務を手伝ってくれる人がいると助かる、との話題が出た。NPO センターでも商工会議所でも良いが、市が手配したことはあるのか。

委員 臨時職員として募集することが多い

委員 ハローワークが永山にもできた。紹介してくれる。現行の法律では、無償というわけにはいかない。現状の会計事務所との関係もある。

委員 小さな事業の NPO でも経理は専門的にしなければならないが、専門の人を雇うのは難しい。経理などの特別なことの指導を受けられるしくみが、NPO、若い起業家などに必要で。

委員 市民活動が盛り上がるように自分のノウハウを出せる人たちがいると良い。その意味では多摩市は最適なポジションにある。

委員 多摩市に人材が多いなら、そういうしくみを作る価値はある。

事務局 リタイアし、事務能力にたけた方が NPO の経理を一気に引き受ける例もよく聞く。それをマッチングするしくみを作れば

委員 たま広報を拡大して駅貼りポスターにする、などの工夫も小さな市なので効果的では。

事務局 携帯電話の対応はしている。

委員 URLやその存在自体がわからないとつなげられない。釣り広告など、存在の PR を進める必要がある。

委員 No.24「組織のフラット化の検討」、No.25「プロジェクトマネージャー制度の導入」などの組織対応が未着手。少しずつでも進めて行くべき。

事務局 機会を捉えフラット化の思想を入れて少しずつ変更している。だが、定型業務が定着している部署にはなじみにくい部分もあり、全部の組織を横断的にとは描き切れない。

委員 効果を全て金額に換算することはできないのか。

事務局 できない部分もある。

委員 再構築プランは進んでいるとの説明を受けた。市民に実感を持たれる工夫が必要。縮小に関しては苦情が出ると思うが、いかがか。

事務局 個別の反応はかなり出ている。又、再構築プランは縮小だけではなく「再構築」であり、拡充している部分もあるのだが、そういったプラスの方向見えにくいとの批判もある。

委員 再構築は、市だけでなく市民も関わるべき。人が集まると苦情が多く出るが、それはある一面のみを見ているからで、多様な立場の人が集まれば縮小した部分と充実した部分の両方がわかる人もいる。再構築プランを進めることによりプラスとなった部分、新たに充実した施策などを積極的に市民に知らせていくことも重要である。

委員 多摩市は子育てしやすいまち、など、インパクトはあるのか。

事務局 日経グローバルの調査では、子育てのしやすさは全国7位。市民参画度は全国1位。

委員 多摩市は子育ての環境は良く、延長保育、病後児保育など充実している。ただ、「全て3番」より、「これだけは1番」の方が印象付けられる。「一番園児が笑っている市」などの曖昧なものでも良く、1番の見つけ方が重要。

委員 それがブランドとなる。何でも少しずつできるより特徴があった方が良い。人により、価値観、見方が違うのが難しいが。

事務局 多摩市は、子育てには力を入れ、予算も重点的に配分している。だが、制度が充実することが更に需要を生むので、需要に追いつきかねている面もある。

委員 多摩市は子育ても推進し環境も多く良い町で、防犯の看板も林立している。安全に暮らせるまちづくりについてはどうなっているか。

事務局 再構築プランには4つの柱があり、4番目が「安全・安心な都市環境」。個別には、No.178「自主防犯組織ネットワーク作り」がある。あとは、市民の活動が活発であることが市の財産ではないか。

委員 安全安心まちづくり推進協議会は、市民もはいつている。

事務局 前回のご意見について確認させていただきたい。③(マル3)の推進方法について、行財政診断市民委員会がフォローアップとして行う、自治推進委員会の評価に含める、新たな支え合いに関しては自治推進委員会の議論の視点と重なるが財政の健全化については難しい、など、異なった意見が出ている。併記としてまとめるか、それとも統一するか。

委員 個別の評価を別にして総体の意見を述べるのは難しい。進捗していない事業を抽

出しそれについて意見を述べる、など、市が欲しい意見を明確にした上で検討した方が良い。

委員 評価の全体フローに内部評価があった。再構築プランの評価はそこに含むのか。

事務局 再構築プランのNo.の中身は、事務事業とはつづが異なり、予算を伴わないものもある。

委員 つづが同じものについては事務事業と共に評価する、など、わかりやすくした方が良い。

委員 再構築プランは、多摩市の行財政方針そのもの。進捗状況が予定より遅れている、など、具体的なことを言っていただいた方が良い。

委員 私のイメージは全体的なものでなく、主要事業を3年サイクルで見直す中で重複するものが出て来る、との意図

委員 年に3分の1の評価をするとき、全体と言って良いのか。
以上の意見を事務局が整理し、委員の追加等の意見をいただいた上でまとめてほしい。

委員 答申を市長に提出する件は、市長の日程もあると思うので出られる人が出れば良いか。了解を得られれば、私か副委員長で調整する。

事務局 訂正した帳票の最後の確認を。
評価をABC~に統一。
公平性は3段階しかなかったので、D「基準の見直しが必要」を追加させていただいた。

委員 今更だが、BCは同じでは。

委員 「軽い」と「低すぎる」の違いはわかりにくい。

委員 「軽い」と「軽すぎる」、または「低い」と「低すぎる」、ならわかるのでは。

委員 A 重い、を入れて4段階とし、他の項目はB以下にはずらす。

委員 今後の日程について。市は、来年度から行政評価の答申に従った方法に変えるのか。

事務局 現行の評価がこれから公表の段階で、事後整理をしながら、庁内への説明をしつつ調整する。来年度から動ける形にしなければならないとは思いますが。

委員 来年度から答申に沿った行政評価をする場合、何回の予定か。

事務局 今日答申をいただいたばかりで即答できないが、かなりの回数が必要と思われる。

委員 年内、10月か11月には開催し、答申の反応を聞きたい。

委員 フォローアップ評価では、多摩市市民自治基本条例をつくる会会員との意見交換をしたい。

委員 あまり堅いものでなく、懇親会のようなもので良いのでは。
また、来年度の方向について、今年度を振り返りながら検討する。